

2017-0427 阿部孝一さん 文字起こし

個人的なメモとしての文字起こしなので、文字の間違いや聞き間違い、意味不明や読みにくい箇所などあると思いますが、大変よいお話だったので、備忘録として、ネット上に上げておきます。

この文章のソースに関しては、以下のサイトをご覧ください。

http://jobneta.sasamedia.net/2017-0427_abe-koichi/

4.02

三代目って言ってますけど、長町生まれ、長町育ちで、

4.32

北大医学部3年生のときに結核になりまして、10年かかって30歳のときに直った、と。で30になって大学に残ってもなーと思って。

4.54

「これから青写真というのがあるぞ？」とちょっとアドバイスしてくれたひとがいて。昭和27年にセント青写真工業をつくったらしいんですね。

5.29

おじきの紹介で、金融機関、一次試験だけ通ればいいよーと言われていたんですけど、漢字だけ200問。

5.43

俺のことが感じが読めるだけで判断するのか？

6.07

仙都に行きましたら、非常にテスト問題が多角的で時事問題も英語も算数も歴史も地理もみたいなのがあって、なんか面白そうだな。

6.38

オヤジが東北電力に務めていたということもあって、「キミなら大企業に務められるだろ？なんでもうちみたいなのところに来るのか？本当にやる気があるのか？」と聞かれて「もちろんです」と言ったら、「キミがウチに来るならば、たくさんの経営者に会えるぞ」って、こういわれたんですね。

6.51

これが非常に何もわからない、「経営者に会えるぞ」ってなんだ？と思ひまして、その意義とか意味とか全然わかりませんでしたけど、「ここだなー」と思ひまして、本間さんの魅力、あと、会社の若々しさに引かれまして、地元企業に入りまして、その後、お陰様で子供も3人大学出て、社

会で今、働いておりますんで、ま、本間さんのことをいつも紹介させていただこうと思って。

7.57

2015年に丁寧退職になって、その年の12月が誕生日で、ま、誕生日が定年月なもんですから、1月に会社に残らずになんか自分でやろうと思ひまして1年間考えようと。自分が楽しくワクワクするようなことで世の中の役に立ちたいと思ひまして、さっき「経営者に会えるぞ」って本間に言われたのを思い出しまして、「そうだな」と。セントで働きながら、たくさんの経営者に会って仕事をさせていただきながら色々な教えをいただいた、学ばせていただいて今あるな—と思ひまして、そういう人たちの思いとか経験を残って言ってないんじゃないかな—、ま、全国的にあの日経の私の履歴書とかありますけど、実際、東北経済をつくっている人達のそれがないな、じゃ、俺が本にしよう、それを仕事にしようって思ひまして。

8.55

そして12月に年賀状で刷りまして、あいさつ回りをしていたんですね、そしたら、東洋ワークの須佐さんというオーナーから電話が入りまして、「今日キミに会いたい」という、こういう電話だったんですけど、あいさつ回りして、ちょうど昼間、2時間ほどアポを入れていなかった時間があった、行きましたら、うちの子会社の社長をやらないか、と、こういわれたわけで、いや、大変ありがたい話だけど、もう年賀状も刷ったし、そういう経営者の自叙伝づくりを自分一人でやろうと思うって年賀状の文面だったんですけど、そしたら、ま、彼も役者だとかですかね、じつとそれを5分ぐらい読んで、パッと顔を上げたら、「ところでキミ、これ、もう出したのか？」というわけですね。

9.57

それ、12月19日の金曜日だったんですけど、土日で書き出そうと思って、まだ1枚も出していない年賀状だったわけですね。そしたら彼が言うには、「今日、キミに会いたいと思ったんだ」って、こういうわけですね。「まだ間に合う」と。出してしまったらそれはあれだけど、「1枚も出していないのは幸いです」みたいなことを言われまして、「週末に奥さんと相談してみてください」なんて言われまして、それで今の会社に入ることになった次第ですね。

10.37

なんか出会いといろんな縁に恵まれている感じがします。

そうですね。（笹崎ご縁ですよ）本当にありがたいですね。

10.39

私、写植と版下をやっていたことがあるので（阿部：あそうですか）セントさんにお世話になりました。あと、私の中では、マッキントッシュを導入するときに、セントさんが早かったので、よくそのときにお名前をですね、ショールームにちょっと見に行ったりとか、したことがあったんですけども。（阿部：へえ）

11.03

そうですね、Macの日本語版がない頃からキヤノンさんとの関係で、力入れてやっていた、私がああ、初代のIT音痴の阿部でしたけど、責任者で、優秀な部下を付けていただいて、立ち上げ

に・・・面白かったですねえ、

11.24

いっきに日本語化したんですよ、確か、あのとき。

すぐ壊れましたけどね、しょっちゅうあの、爆弾マークみたいなのが出て、（笹崎：懐かしいですね）ははは

11.31

（笹崎：たぶんパワーマックが出るちょっと前ぐらいですかね）

（省略）

（曲）

12.17

お送りした曲は越路吹雪で愛の賛歌でした。お好きな曲ですか？

そうですね、ちょっと思い出があるのでかけていただいたんですけど、私、セント時代に歌が非常に下手で…接待をしますよね、たとえば若い時分、部長と一緒に、えー、某お客さんこう、行くわけですよ、二次会行くとだいたいカラオケのあるお店に行って、お客さんに歌ってもらおうと思って勤めると、「僕はうたはダメなんだ」とお客さんいうわけですね。で、部長が、「じゃ、阿部、歌え」と。この部長ってのが、歌、下手だったんですよ(笑)

12.55

私が…その、さっきまで「歌はダメなんだ」と言っていたお客さんがですね、私がワンフレーズ歌うと、選曲に入ってしまった、もう歌いっぱなしですね。そして部長もたまに私の後に歌って、彼もまた音痴なものですから、二連発で音痴だとお客さん、もう、最後まで歌いっぱなしで、結局帰りに部長に褒められて、「お前と接待すると楽でいいな」と(笑) 「気遣わないで、お客様歌っているだけだもんな」って(笑)

13.31

で、こんな音痴だったんですけど、震災の後に宗久真紀さんというシャンソン歌手がいて、気仙沼出身なんですけど、チャリティコンサートがあって、そこに私、ご縁があってお邪魔して、出口で少し酔っ払っていたのもあって(笑)、歌が下手だっている話をしましたら、個人レッスンしましょうということになって、2年ばかり習ったんですね。

13.57

歌の先生ですから、音痴を直してもらえるものと思って彼女のところに行きましたら、「何歌いたいの？」っていうので、もちろん一曲だけ歌えればいいわけですから、じゃ、大ネタだなと思って、愛の賛歌をやって、そしたら先生が面白い先生で、最初、姿勢なんです、姿勢を徹底的に直される。まっすぐに立つ、右側に傾いたり、（笹崎：声じゃなくて最初の体のバランスとか）すつとまっすぐ立つっていうのが歌には非常に大事だと。

14.31

で、姿勢が終わったら、今度歌かと思えますよね、今度呼吸なんですよ、呼吸を徹底的に、深い息をするっていうのを教わって、それもいよいよ歌かと思ったらまだ入らずに、今度解釈なんですよ

(笹崎：解釈！)

14.49

「なぜ阿部さん歌うの？」って。「誰に向けて歌うの？」って。愛の賛歌…あなたの燃える手で私を抱きしめて、ですよね。それで言われたのは、「阿部さんはね、私というところには非常に気持ちがかもっている」と、「あなたというところは全然ダメだ」って言われたんですよ。(笑)うちに帰って女房に言ったら、「でしょう」って(笑)「その通りだ」って言われましたけど、先生言うのはそういうことじゃなくて、あなたというときに、特定のシャンゼリゼ通りの窓辺にたたずむ金髪の誰かというような、特定の人をちゃんと浮かべて言葉を発しないと、通じませんよって言われたんですよ。

15.34

それはでも非常にいい経験でしたね。ま、いま、本づくりなんかやってますけど、そこにつながるような、その2年間、2年間というかしょっぱなのその姿勢？呼吸？解釈？そして「誰に対して歌うの？」というところを、とてもその後参考になったというかですね。(笹崎：その上に出てくる声っというところですね、だからバックボーンがすごく深いんですね。)

16.20

その辺が整理されていると、人の伝えられるというか、感動させられる、ということだったんじゃないかな、と私は思ってますけどね。

16.29

(笹崎：すごくいい先生にいい習い方をしたように思いますね)

シャンソン教室に行っているのに、禅寺に通っているような感じですよ(笑)

16.37

(笹崎：結構、物事って極めると、そういうところからなるのかもしれないね)

16.48

※Facebookコメント紹介

18.21

(笹崎：さて、最後なんですけども、ライフワークですね、自費出版というか、ご自身が歩いてきた道を形にすることなんですけども、それを本に出すお手伝いを今現在、されているということなんですよね)

18.35

はい。相伝選書という名前を付けたんですけれども、これの出版理念をつくったんですけれども、東北の経営者の経験とスピリットを明日に伝える。

(笹崎：あ、経営者さんが歩いてきた道、ということですね。)

19.09

そうです。ま、さっきの歌じゃないですけど、(笹崎：ほんとだ、つながってる、つながってる)私の作るこの相伝選書というのは、広く一般の方に読んでもらおうというよりは、今、経営を支えている方とか、会社が長く続いていくために、経営者の思いを残していくような、ある特定の人、未来の友人、未来の家族に対して書く位置づけということで本を出しております。

19.52

やはり経営ですから、時代に対応していかなければならないわけですがけれども、変わらないもの、変えてはならないものというものを、こちら、我々がお手伝いすることによって、一冊の、100頁か200頁か300頁の中に凝縮させていただくというのをやっております。

20.15

(笹崎：あ、なんかあの、原稿がちらっとう、校正が入っているような、あの)

ホシヤマ珈琲の星山…今は代表ですけども、彼のあの、自叙伝というか、アエルに出したときはこういう思いで出して、こういう経緯だったとか、中国でこういうことを学んだとか、そういうことを徹底的に取材させていただいて、本人が納得するまで、コミュニケーションさせていただいてまとめていくという。

20.47

(笹崎；そうすると、ご本人が文章を書くというよりは、取材をしてそれを字に起こしていくという…)

そうですね、両方ありますけどね。ある程度書く方もいらっしゃいますし、まったく喋りまくって…

21.05

(笹崎；でも、喋りまくるのもいいもの書けますよね。プロの方が文字起こししますからね)

21.07

ある方なんかは、「しかしお前、おれが、こんな勝手なことばかり言ったのに、よくまとめたもんだって(笑)…この方です。この方にそういわれました(笑)

21.19

(笹崎；この方は大場?)

大場さんという築館の大経営者ですけどね。大場一豊さん

21.32

(笹崎；会社はどういった会社さんなんですか?)

築館クリーンセンターっていう(笹崎；処理場?)そうですね、(笹崎；村井知事が推薦の文章)書いていただいて…こういう男でございます。(笹崎；あらー、これ、)豪快な大社長ですけど、半年がかりで質問攻めにさせていただいて、彼の思いを(笹崎；ぎっしり詰まっている、と)はい、(笹崎；というところですね)

21.52

(笹崎；取材は阿部さんがされるんですか?)

そうですね、私とライターとディレクターと(笹崎；3人で?)えーとそうですね、

22.03

これもあの、宣伝ついでに。定義の有名な三角油揚げのえーと、(笹崎；「如来さまにみちびかれ」という庄司勝壽(かつじゅ)会長の、去年77歳を迎えられてバリバリお元気ですけどもね。

22.17

その節目を迎えて歩みをまとめて…

22.37

そうやって聞き書きだといいいものができるんじゃないかな?っていう思いがすごくあって、自分の

インタビューとかはやるんですけども、ご本人が書くものと、聞いたものを編集するものといひバランスでエッセンスが伝わるような気がしました。

22.49

そうですね。

22.54

ただ、テープとか起こすのすごい大変じゃないですか？ICレコーダーですかね。

そこが面白いところでもあり、醍醐味でもあり、大変な所でもあります。（笹崎；時間、かかりますよねー）はい。

23.04

これが、さっきの星山さんのが私のデビュー作ていうか第一作なんですけど、できたときに尊敬する神渡良平ていう大作家がいて、日本人ですけど世界中の偉人のマザーテレサですとか、そういうかの自叙伝を書いている方ですけど、この方に報告にいきたいな、と思って、山形にいらっしやったときに、この写真がそうですけど、こういうのを、相伝選書というのをはじめましたという報告に行きましたら、なんとお手紙を、うれしい手紙をいただきました。キミの本を、いただいた本をホテルの部屋に帰って読みだしたら、止まらなくなって、次の日の新幹線でもずっと読み続けた、と。素晴らしい、と書いていただいて。頑張れ、と。キミのやろうとすることは価値あることなので、頑張んなさい、という手紙を一回目いただきました。

24.16

わー、非常に、こんな筆で達筆で、そしたらその1~2週間後にもう一枚の手紙をいただきました。そこにはこう書いていたんですね、「君にひとつだけ言っておきたいことがある、と。著者のいうことだけを書いてはダメだ、と。キミというフィルターを通して、まとめてさしあげろ、という、ありがたい大先生からの懇親のアドバイスをいただいて、

24.45

（笹崎；そこがやっぱりいい味わいになる気がするんですよ、私がまとめるとちょっと申し訳ないんですけども、ストレートじゃなくて多少、人のフィルターが入ったほうがいい感じがすごいするんですよ、きっと、すごい、読みたくなってきました）

25.06

一番町の金港堂で山積みになっております。阿部さんの連絡先080-9017-7183ブレインワークス、阿部孝一さんまでご連絡いただきたいということでした。